

セット品番

F426-HT
F426K-HT

スパウトインタイプ浄水器

クリンスイ 据付説明書

給水一次側配管との接続及び検査は管工事業者に依頼してください。
器具をシステムキッチンに取り付ける作業は、システムキッチン取付設置業者で実施することができます。

●据付される方へお願い

この器具を安全に正しく設置いただくために、「据付説明書」を必ずお読みください。

1. 安全上の注意

ここに示した安全上の注意事項は、お守りいただかない場合、重大な結果に結びつく可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

●次の表示は、表示内容をお守りいただかず、誤った取り扱いをした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。



注意

軽傷を負ったり、周辺の家財に損害を与える可能性のある内容を表します。

●次の表示区分は、お守りいただく内容を説明しています。



禁止

してはいけない
『禁止』内容を
表します。



分解禁止

してはいけない
『分解禁止』内容を
表します。



指示

必ずしてほしい
『指示』内容を
表します。

F426-HT（一般地仕様）
F426K-HT（寒冷地仕様）

⚠ 注意

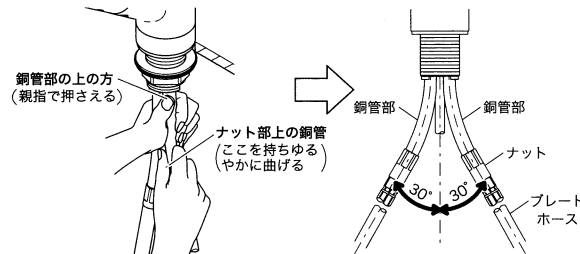


指示

●配管工事はすべて建築基準法、水道法、各都市の法令規定に準じて行う。

●水道水の飲用基準に適合した水を使用する。
温泉水・井戸水など異物を多く含む水には使用しない。
体調を損なうおそれがあります。

●銅管を曲げて施工する場合、
銅管を押さえながら銅管をゆるやかに30度以内の曲げ角度で施工する。
銅管を広げすぎると銅管が潰れて吐水量不足になるおそれがあります。亀裂や破損して家財などを濡らすおそれがあります。



禁止

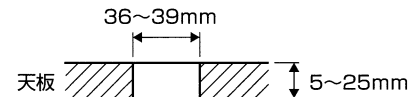
〈一般地仕様の場合〉

●凍結のおそれがある場所には設置しない。
部品が破損し、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。



指示

●ホーロー、天然石のシンク天板に穴を開ける場合は、キッチンメーカーに相談する。
カウンターの適合穴径は36～39mm、天板厚は5～25mmです。
36mm未満の穴には取り付けません。
無理に穴を開けて取り付くと、家財を傷つけるおそれがあります。



●止水栓取付箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にする。
点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らすおそれがあります。



分解禁止

●水栓、ホース、カートリッジは分解しない。
破損してやけどやけがをしたり、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。



指示

●水受け容器は必ず設置する。
使用中に水がシャワーホースをつたって、家財などを濡らすおそれがあります。

●必ず同梱の各部品をセットして使用する。
部品をセットし忘れたり純正以外の部品を使用すると水漏れの原因となり、家財などを濡らすおそれがあります。

⚠ 注意



指示

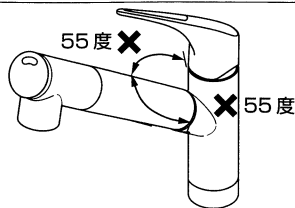
- 給湯器の設定温度は60℃以下で使用する。
高温の湯が出て、やけどをするおそれがあります。
60℃を超える高温で使用すると、カートリッジが破損する場合があります。



禁止

- 製品に強い力や衝撃を与えない。
破損して水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。

- 吐水パイプは水栓正面から左へ55°、右へ55°
以上回転させない。
破損して水漏れにより家財などを濡らすおそれ
があります。



- 吐水口は手やふきんなどで触れたり、シャワーヘッドを水中に没させない。
雑菌が繁殖するおそれがあります。

- カートリッジを落したり、強い力や衝撃を与えない。
カートリッジが破損・変形し、十分な性能を発揮できなくなるおそれがあります。



指示

〈寒冷地仕様の場合〉

- 通水試験の後、水抜き操作と水栓金具の水抜きを行う。
凍結により部品が破損し、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります。



禁止

〈寒冷地仕様の場合〉

- 水抜きユニットは水抜き以外の目的で開けない。
水抜きユニットをいきなり開けると高温の湯が出て、やけどをしたり、水漏れにより家財など
を濡らすおそれがあります。

- 配管などの解氷のため解氷機を使用する場合、水栓（給水・給湯管含む）には絶対に通電
しない。
通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らすおそれがあります。

- 湯水を逆に配管しない。
水を出そうとしても湯が出て、やけどをするおそれがあります。

2. 設置条件

①使用水压

本器具の使用可能配水管圧力（静水压）は0.07～0.75MPa、常用使用圧力（動水压）は0.07～0.35MPaです。



配水管圧力（動水压）が0.35MPaを超える場合、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。

（1）瞬間給湯器との組み合わせ

〔設定条件 水温：25℃、給湯器温度調節：高温、吐水温度：42℃、ハンドル全開〕

〔比例制御式〕最低必要水压：A + 0.10MPa（動水压）、最高水压：0.75MPa（静水压）

（2）貯湯式給湯器との組み合わせ

〔給湯・給水圧力〕最低必要水压：A + 80.0MPa（動水压）、最高水压：0.75MPa（静水压）

〔A = （給湯器の最低作動水压）÷ （配管圧力損失）〕

②給水・給湯の水压はできるだけ同じになるようにしてください。

（極端に圧力差が異なる場合、水流音が大きくなる場合があります）

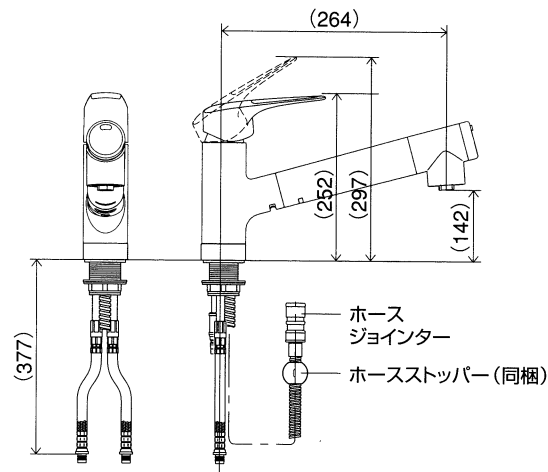
（給湯の水压が高い場合やけどをするおそれがあります）

③給湯器からの給湯管は抵抗を少なくするため最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。

3. 梱包部品

最初に下記内容部品がそろっているかご確認ください。

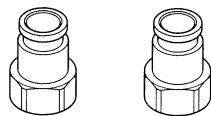
●F426-H/F426K-HT水栓



〈寒冷地仕様の場合〉

・ホースストッパーは同梱

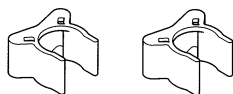
●逆止弁ソケット (寒冷地仕様は逆止弁無) 2個
(パッキン 2個付)



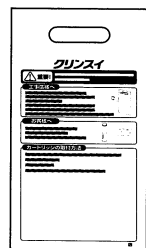
●クイックファスナー 2個



●クイックファスナーロック 2個



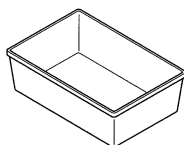
●吊り下げ袋



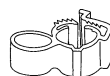
●ホースジョインターロック 1個



●水受け容器 1個



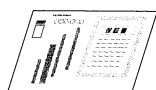
●ホースガイド 1個



●カートリッジ 1個

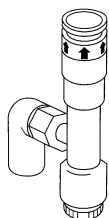


●取扱説明書、据付説明書、
保証書、お知らせコールカード



〈寒冷地仕様の場合〉

●水抜きユニット 1個

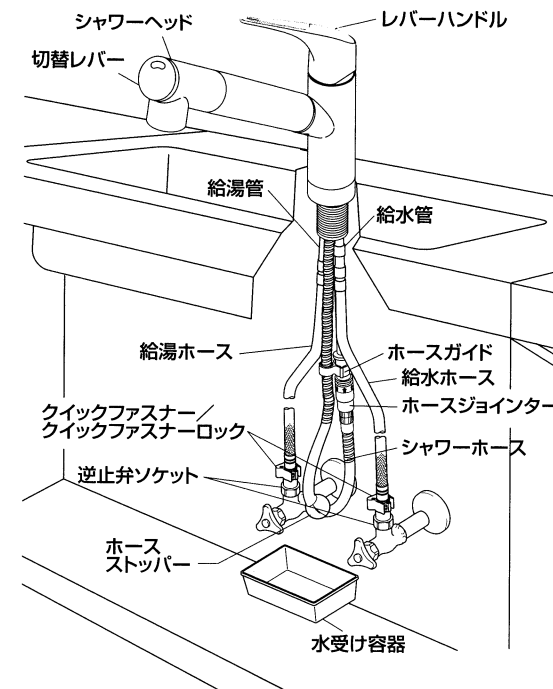


4. 器具の据付

※管工事業者に依頼してください。

4-1. 据付場所の選定

- ①シンク下 (流し台下) で、既設の配管にぶつからない場所へ設置する。
- ②レバー操作及びカートリッジケース操作スペースが確保できる場所へ設置する。

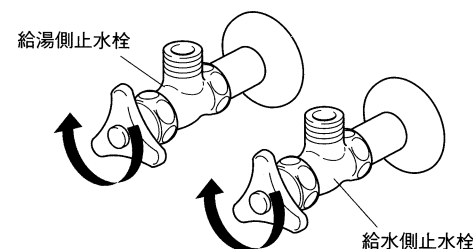


4-2. 浄水器一体型水栓据付方法

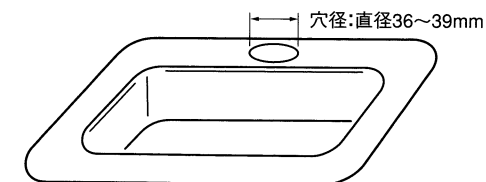
△注意

- ・給水・給湯を間違えないように接続してください。
(水を出そうとしても、湯が出てやけどをするおそれがあります)
- ・一次給水側は、特に水漏れのないように確実に接続してください。
(確実に接続されていないと、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

①給水・給湯側止水栓を閉じる。



②天板に浄水器一体型水栓取付用の穴を開ける。



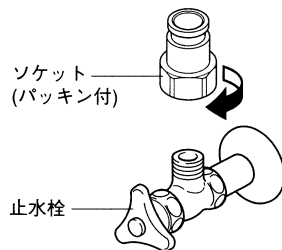
※ホーロー、天然石のシンク天板に穴を開ける場合はキッチンメーカーにご相談ください。

③逆止弁ソケットを止水栓に接続する。

※逆止弁付ソケットは、手でいっぱいに締め付けた後、モンキーレンチで締め付けてください。(適正トルク：20N・m)

⚠ 注意

- ・水栓の配管接続部はテーパネジに接続しないでください。
(接続部がゆるみ、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・パッキンが入っていることを確認してください。
(パッキンが入っていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・ゆるみがないように確実に締め付けてください。
(ゆるみがあると水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・過剰な力で締め付けしないでください。
(パッキンがよれて水漏れするおそれがあります)

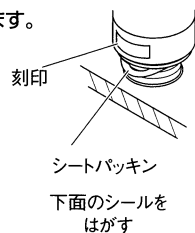


④シートパッキン下面のシールをはがし、取付穴に差し込んで刻印が正面にくるようにして天板に押しつける。

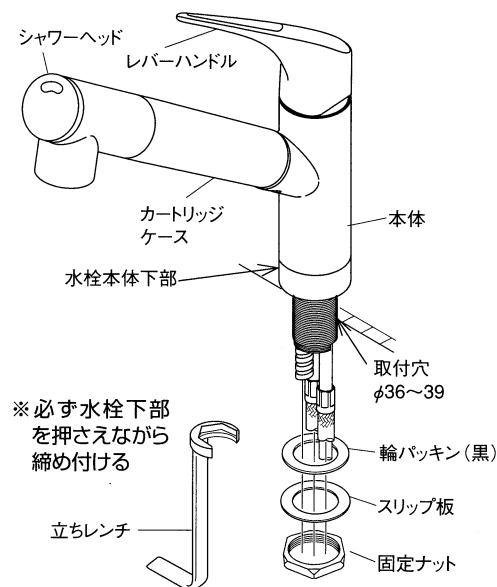
※水栓本体の取り付けは、カウンターをフロアユニットに固定する前に行うことをおすすめします。

⚠ 注意

- ・水栓全体を差し込む前に取付穴の周囲の汚れやゴミを取り除いてください。
(汚れやゴミがあると、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・シートパッキン下面のシールをはがして固定してください。
(シールをはがさないで固定した場合、水栓本体と天板のすき間からの水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



⑤輪パッキン、スリップ板、固定ナットを給水管に通し、必ず水栓本体下部を押さえながら固定ナットを立ちレンチで締め付ける。



※給水・給湯ホースの先端にあるビニール袋はアダプタ取付まではずさないでください。

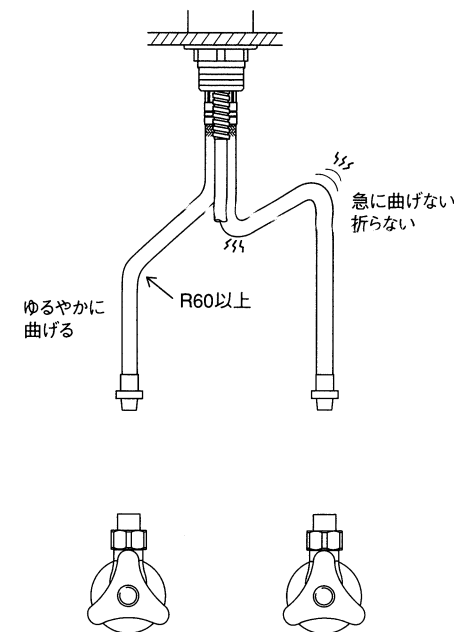
⚠ 注意

- ・ゆるみがないように確実に締め付けてください。
(ゆるみがあると水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・シャワーヘッド、カートリッジケース、レバーハンドルを持って固定ナットを締め付けしないでください。
(器具が破損して、けがをするおそれがあります)

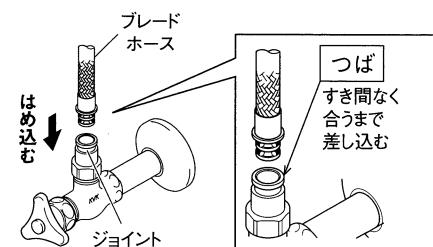
⑥給水・給湯ホースを右図のように、止水栓の取り出し芯に合うようにゆるやかに曲げる。

⚠ 注意

- ・ホースはR60以上の大きな曲げ半径で曲げてください。
(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・ホースの根元に力がかからないように曲げてください。
(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・給水・給湯パイプを必要以上の力で曲げて折らないように注意してください。
- ・給水・給湯パイプ同士の不要な接触は避けてください。
(パイプ性能の劣化の可能性がありますので避けてください。)
- ・給水・給湯パイプを無理に引っ張らないでください。
(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- ・給水・給湯管を水栓本体端面から30度に屈曲して据付しないでください。
(亀裂や破損が原因で水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



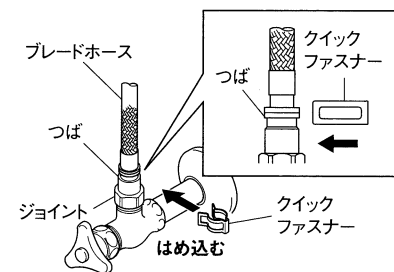
⑦給水・給湯ホースをアダプターに差し込む。



⚠ 注意

- ・先端にOリングがついていることを確認してください。
- ・湯・水を逆に配管しないでください。
(水を出そうとしても、湯が出てやけどをするおそれがあります)

⑧クイックファスナーを給水・給湯ホースとアダプターのつばに確実ににはめ込む。

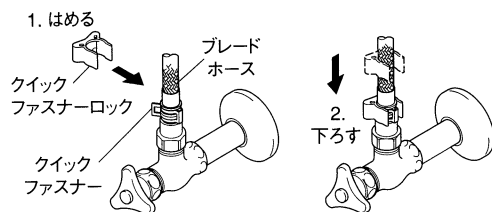


⚠ 注意

- ・ブレードホースを上引っ張って、抜けないことを確認してください。
(しっかりとまっていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



- ⑨クイックファスナーにクイックファスナーロックをはめ込んでください。この時、クイックファスナーロックはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまで下ろす。

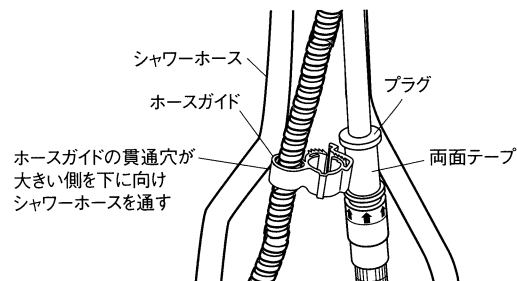


4-3. シャワーホースの据付

〈一般地仕様の場合〉

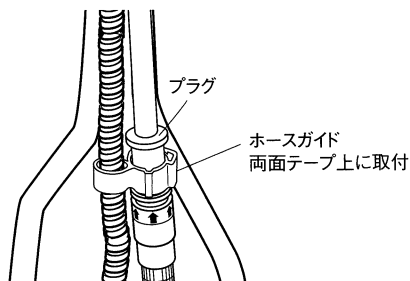
- ①シャワーホースにホースガイドを通す。
プラグの両面テープのシートを剥がす。

※ホースガイドの取付はホース貫通穴部の大きい穴を下側してシャワーホースへ取付けてください。



- ②ホースガイドをプラグの両面テープ上にしっかり取り付ける。

※ホースガイドはシャワーホースがキッチン引出に干渉しないよう向きを調整して取付けてください。

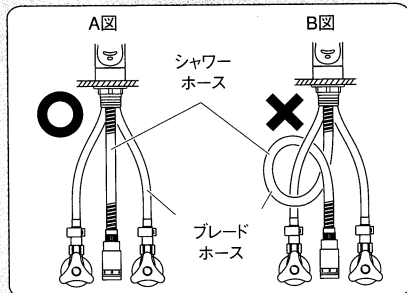


- ③ホースストッパーを、シャワーホース、セレーション部より400mmの位置に取付けてください。



⚠ 注意

- 固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。B図のように、ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)
- ホースジョインターとホースの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。(増し締めトルクの目安=約1N・m)
- ホースストッパーが、給水・給湯ホースにあたらないことを確認してください。



〈寒冷地仕様の場合〉

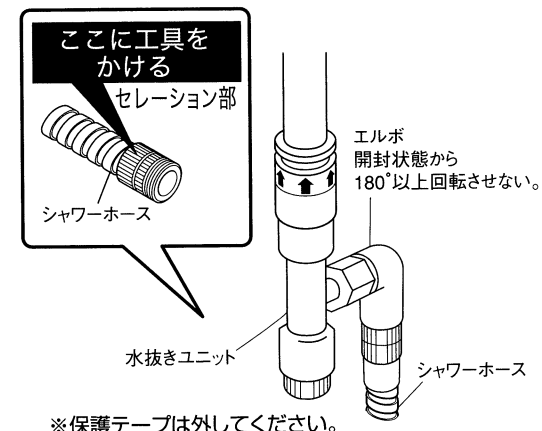
- ①シャワーホースにホースガイドを通し、プラグの両面テープ上にしっかり取り付ける。
〈一般地仕様の場合〉①、②、③参照。

- ②同梱の水抜きユニットをシャワーホースにプライヤーなどで接続する。
(適正トルク: 4N・m)

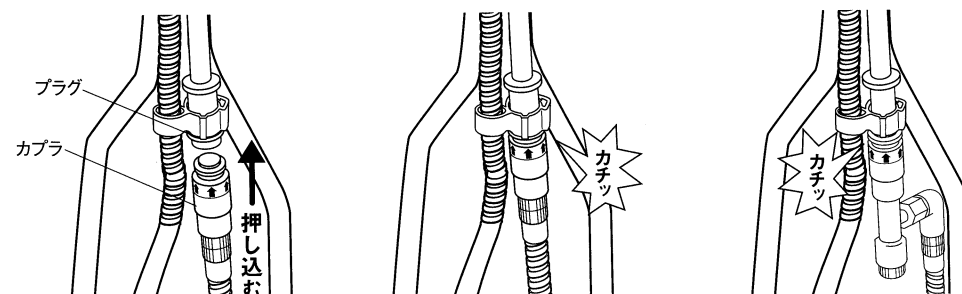
※シャワーホースが引出しなどに干渉しないよう向きを調整して取り付けてください。

⚠ 注意

- 締め付け不足、締め付け過ぎにならないようにしてください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)
- シャワーホースをねじらないでください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)
- シャワーホースのセレーション部以外には工具をかけないでください。(シャワーホースが破損し水漏れにより財産などを濡らすおそれがあります)
- 本体のプラグにホースジョインターを押し込む前に、ホースジョインターと水抜きユニットの接続が緩んでいないか確認してください。緩んでいる場合は、増し締めしてください。(増し締めトルクの目安=約4N・m)



- ③ホースジョインター（寒冷地仕様は水抜きユニット）を、本体のプラグへカチッと音がするまで押し込む。
取り付け後、ホースジョインターを引っ張って外れないことを確認する。



一般地仕様の場合

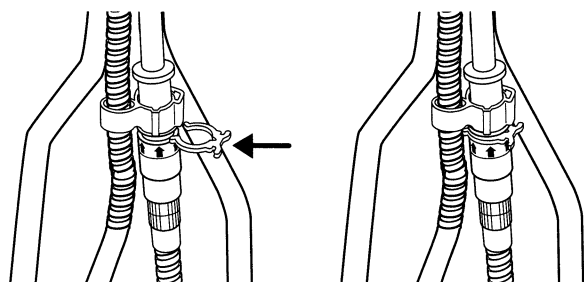
寒冷地仕様の場合

⚠ 注意

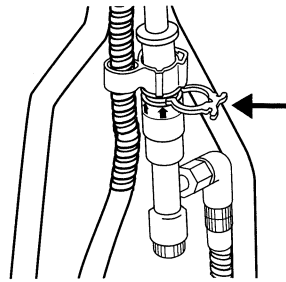
- ホースジョインター取り付け後、確実に接続されているか、確認を行ってください。(確実に接続されていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)
- スライダーが5mm程度上がっていてホースジョインターを真下に引っ張って外れないか、確認を行ってください。(確実に接続されていないと水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)



④スライダーとカプラの間にホースジョイントロックを取り付ける。



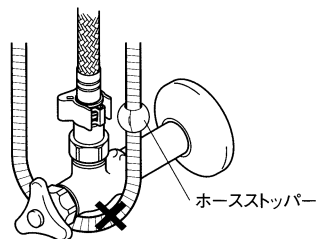
一般地仕様の場合



寒冷地仕様の場合

⑤シャワーホースを引き出し、シャワーホースに引っ掛かりなどがなく、スムーズに引き出せるか、確認する。

※止水栓などに引っ掛かり、引き出せなくならないか確認してください。

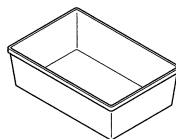


流し台に水受け用タンクがある場合

シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。ホースとの接続の銅管部を曲げることで左右に振ることができます。

5. 水受け容器の設置

ホースの伝い水を受けられる位置に水受け容器を設置する。水受け容器の底面にある両面テープをはがして設置してください。

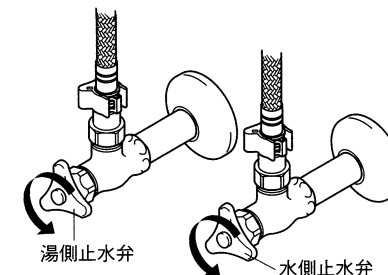


6. 据付後の点検

※管工事業者に依頼してください。

6-1. 配管内洗浄

①給水・給湯側止水栓を開く。

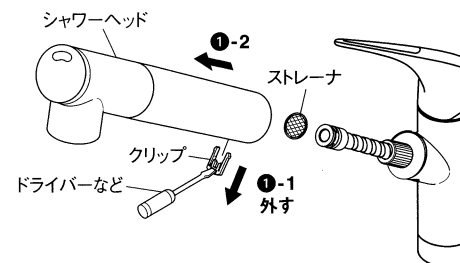


②工事中・据付中に配管内に発生したゴミを流し出す。

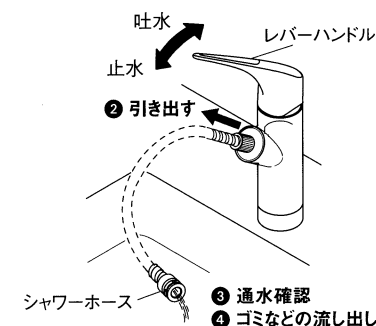
※カートリッジを取り付けないでください。

① シャワーホースを引き出し、マイナスドライバーなどでクリップを外してから、シンク内でシャワーヘッドを外す。

② シャワーホースをシンクに置く。



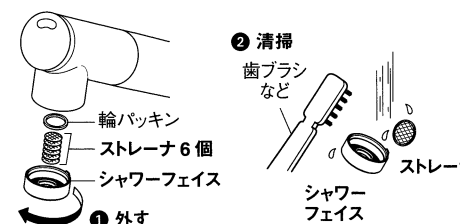
③ シャワーホースを持ち、下に向けた状態にして、湯水全開で数分間吐水させ、配管・水栓内のゴミなどを流し出す。



●吐水口の清掃方法

※シャワーヘッドをつけたまま、初めての通水をしてしまった場合は吐水口のストレーナも清掃してください。

① シャワーフェイスの二面幅に工具をかけ回して外し、ストレーナ(6個)を取り外す。



② シャワーフェイス、ストレーナをブラシで水洗いする。

※シャワーフェイスの取り外し及び締め付けはモンキーレンチなどの工具で行ってください。

※シャワーフェイスは、締め付けすぎないようにしてください。部品が破損するおそれがあります。

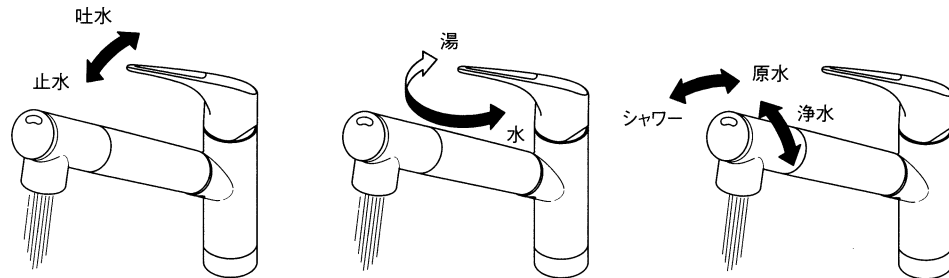
⚠ 注意

清掃後の組み立ては確実にこなしてください。
(確実に組み立てられていない場合、水漏れにより家財などを濡らすおそれがあります)

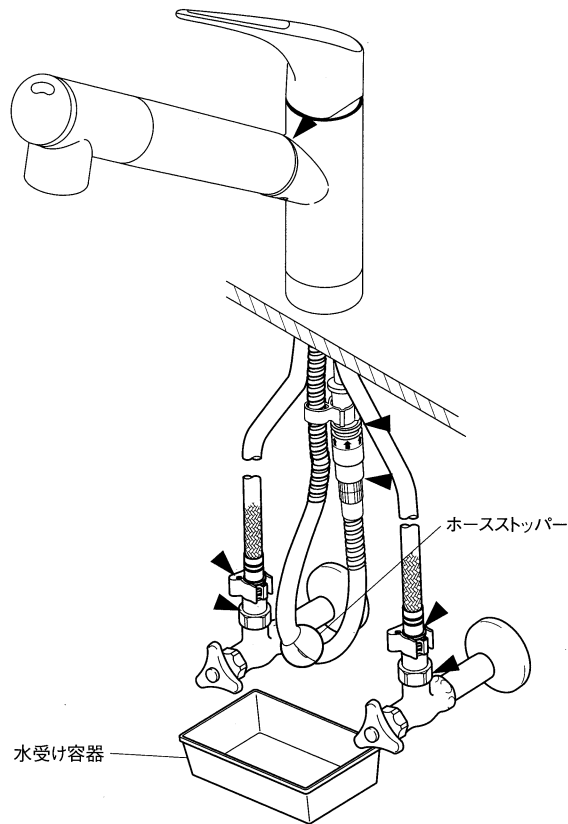
清掃後は、外した逆の手順で組み立ててください。

6-2. 水漏れの確認

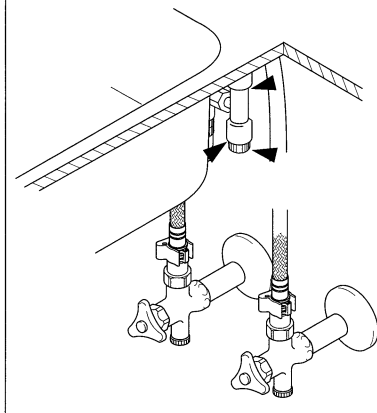
- ①レバーハンドルの湯・水及び切替レバーの浄水・原水・シャワーの各位置で吐水・止水しながら繰り返し操作して配管接続部の水漏れがないことを確認する。



- ②矢印部分から水漏れがないか必ず確認する。



〈寒冷地仕様の場合〉

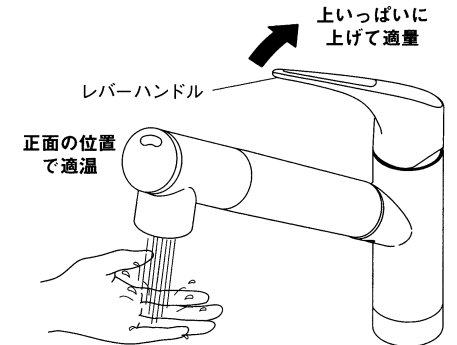
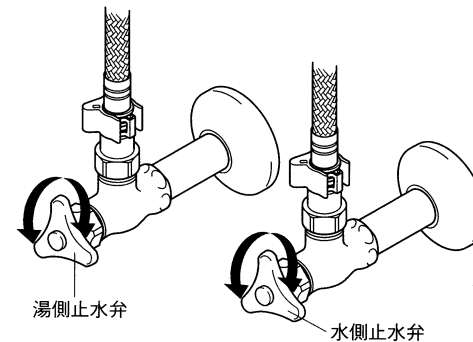


6-3. 温度と流量の調整

温度調整・流量調整

「2. 設置条件」を再確認の上、レバーハンドルが湯側、水側の各位置（全開）で適温、適量になるように、止水弁で調整する。

適量の目安：レバーハンドルを湯側、水側の各位置で吐水した時、原水及びシャワーの流量が約 15 秒で 2L の容器を満たす程度。

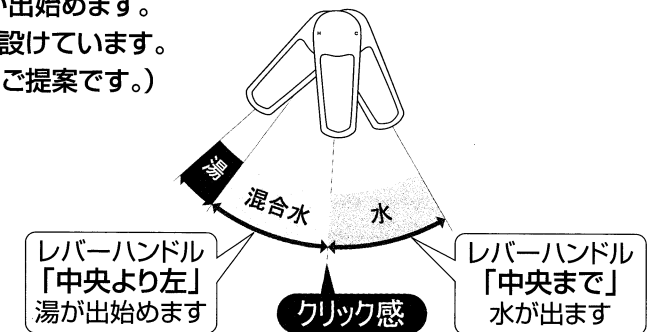


⚠ 注意

給湯器が瞬間型の場合、吐水量が少ないと給湯器が着火しないことがあります。レバーをできるだけ全開でご使用頂くために全開状態で、適量調整してください。

●温度調整方法

レバーハンドルを回し、右側いっぱいから中央まで水が出ます。中央より左へ回すと次第に湯が出始めます。湯が出始める位置にクリックを設けています。（無駄なお湯を使わないためのご提案です。）

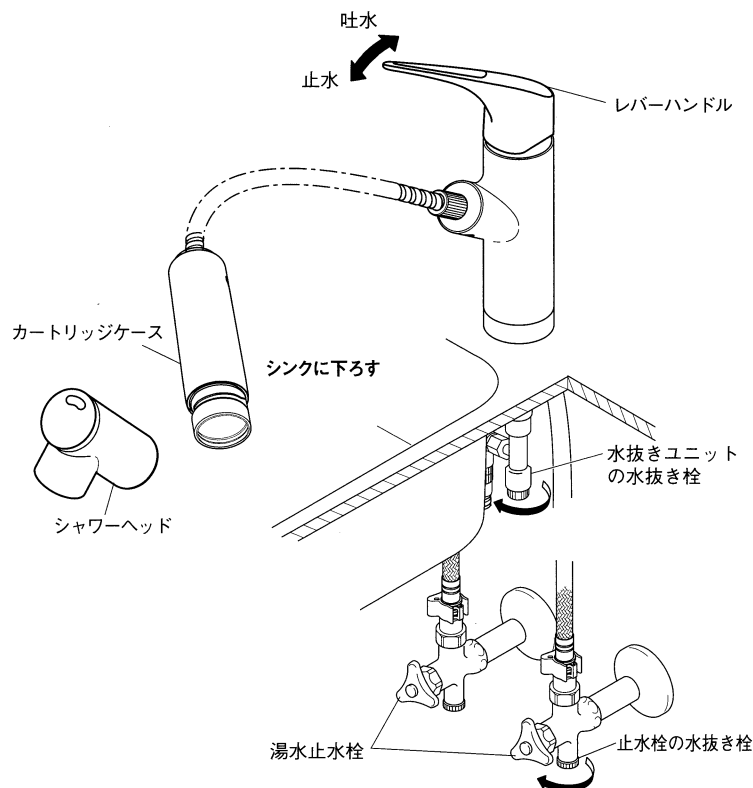


6-4. 寒冷地仕様の場合

●水抜き方法

凍結が予想される場合、水抜きを行ってください。
又お客様にも水抜き方法をご説明ください。

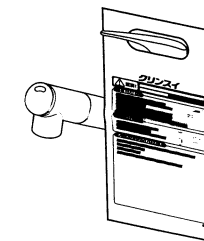
- ①配管部の止水栓を閉める。
通水が止まります。
- ②レバーハンドルを右側いっぱいに戻し上げる。
配管内に空気が入ります。
- ③カートリッジケースをシンクに下ろし
シャワーホース水抜き栓のエルボを上に向ける。
- ④水を受ける容器（洗面器など）を用意し、
シャワーホースの水抜き栓と、水側の
止水栓の水抜き栓を開けて水を抜く。
- ⑤レバーハンドルを上げたまま左側いっばいに回し湯側の止水栓の水抜き栓を開け水を抜く。
- ⑥シャワーヘッド、シャワーホース、
カートリッジ内の水を抜く。
- ⑦シャワーヘッドを取り付ける。
- ⑧シャワーホース／湯／水の水抜き栓を
確実に閉める。
- ⑨レバーハンドルを下げる。



7. 吊り下げ袋の設置

カートリッジが入っている吊り下げ袋をレバーハンドルに
引っ掛ける。

※カートリッジは据付時に取り付けしないでください。
水栓を使い始める直前にお客様に取り付けていただきます。



8. 最終点検

- ☐ 水受け容器を設置しましたか？
- ☐ シャワーホースを引き出した時、引っ掛かりはないですか？
- ☐ 配管内の洗浄を実施しましたか？
- ☐ ストレーナのごみ取りをした後、ストレーナを水栓内に戻しましたか？
- ☐ 水漏れはないですか？
- ☐ 温度はレバーハンドルが正面の位置で、適温ですか？
- ☐ 流量は適切ですか？
- ☐ 寒冷地仕様の場合、水抜きをしましたか？
- ☐ 吊り下げ袋の中に「カートリッジ」と「取扱説明書」を入れましたか？
- ☐ 最後に、この「据付説明書」を吊り下げ袋に入れ、レバーハンドルに引っ掛けてください

三菱レイヨン・クリンスイ株式会社

●商品に関するお問い合わせは下記までお願いします。

クリンスイサービスセンターU係

0120-328-432

受付時間／平日10:00～17:00（土・日・祝日10:00～16:00）